

## 聞き上手なお母さん その1

「ママ、ペットボトルある。」「何、どうするの。」「幼稚園で使うの。色水作るの。」「へえ、色水作るんだ。楽しそうね。できたらママにも見せて。」「うん、いいよ。おばあちゃんにも見せてあげる。」バスから降りるなり、お迎えにきていたお母さんに空ペットボトルの有無を尋ねるこうちゃん。お母さんは、こうちゃんの表情から心の躍動を感じましたが、まずは探りを入れてみます。案の定、こうちゃんは喜々として色水作りのためと答えます。それを聞いたお母さんは、「へえ」と驚きながら、「できたらママにも見せて。」と、こうちゃんの意欲を後押しし、さらに高まりを誘います。

白コースで歩いて帰るみっちゃんは、いつものように交差点の角でみんなと別れると、お迎えにきていたお母さんのもとへ駆け寄りしました。「ママ、雲梯できた。」「えっ、できた。すごうい。」お母さんはすぐさまみっちゃんの気持ちを察知し、雲梯をどのようにすることができたのかを知ることなど後回しにして、まずは両手でみっちゃんの肩を抱きながら驚き、感心して見せました。みっちゃんは、目を輝かせながら続けます。「あのね、真ん中までできた。今度見て。」「うん。見るよ。今度ママにも見せて。」「あのね、ゆうなちゃんもできるよ。」「すごうい。ゆうなちゃんもできるんだ。」「ゆうなちゃんと一緒にやったの。ゆうなちゃんも真ん中までできるよ。」「一緒にやったんだ。仲良しさんだね。」「たけちゃんもやったよ。ううんと、先生もやった。」「へえ、先生も一緒だったの。先生、上手でしょ。」「先生ね。全部できる。」「そうか、先生上手だから、端から端まで行けちゃうんだ。」

この二人のお母さんには、三つの共通点があります。その一つは、二人とも話しかけてきたときの子どもの気持ちの高まりを察知し、その気持ちを初めから肯定的に受けとめていることです。こうちゃんのお母さんは、「へえ、色水作るんだ。楽しそうね。」と、こうちゃんの勇むような期待感を共有しようとしています。みっちゃんのお母さんは、「えっ、できた。すごうい。」と、みっちゃんのはじけそうな喜びに共感しています。二人とも根本的に子どもの思いを子どもの側に立って受けとめているのです。

二つ目は、二人とも子どもの意欲を後押しし、さらに高みへと導いていることです。こうちゃんのお母さんは、「できたらママにも見せて。」と、こうちゃんの創作意欲を押し上げます。だから、こうちゃんも、「うん、いいよ。おばあちゃんにも見せてあげる。」と、思いが高ぶり広がります。みっちゃんのお母さんも、「うん。見るよ。今度ママにも見せて。」と、みっちゃんの思いに応え、さらなる挑戦意欲を掻き立てます。

三つ目は、二人とも子どもの言葉を繰り返しながら受け答えていることです。「へえ、色水作るんだ。」と繰り返したのは、こうちゃんのお母さんです。「ゆうなちゃんもできるんだ。」「一緒にやったんだ。」と繰り返したのは、みっちゃんのお母さんです。二人のお母さんはこの繰り返しの中で、その言葉を発したときの子どもの気持ちに共鳴しています。だから「楽しそうね。」と一言加えたり、「すごうい。」と付け足したりしているのです。お母さんたちは、基本的に子どもたちをプラス志向で受けとめているのです。

このようなお母さんのプラス志向的受けとめは、子どもたちにさらなる発言を湧出させます。子どもは、話すことに心地よさを感じ、自ら話したくなるからです。言うなれば、こうちゃんのお母さんもみっちゃんのお母さんも聞き上手です。子どもを肯定的に受けとめ、子どもの思いに共感しながら子どもの発した言葉の一部を繰り返す。子どもはさらに続けて話したくなり、自ら思いを吐露し続ける。お母さんは、その思いにエールを送って子どもに喜びと自信を与える。実に見事な聞き手です。聞き上手なお母さんの下では、子どもは安心して自分を表出していきます。